

官民連携で取り組む景観まちづくり まちづくり活動での景観資源の活かし方

埼玉大学・深堀清隆

▶景観とまちづくりを切り離さない

良い景観づくり（見た目）を目的にするのではなく・・・

⇒良い景観は、まちづくりをすることで得られる恩恵
その恩恵をうまく使うことで、まちづくりがうまくいく。

たとえば、自然（森林）を守ることは、洪水や土砂災害
から人々の暮らしを守り、食料や癒やしなど多くの恩恵をもたらす

▶良い景観とは、社会や生活を守る自然＝基盤（インフラ）
景観は、長い間かけて地域が培ってきた記憶や面影であり、
人が作り上げたグリーンインフラ

景観（地域の個性や自然、伝統を継承するもの）を守り、
活かすことは、暮らしが安全で豊かになり、賑わいも生まれる

■行田市での景観まちづくりの方向性

～より多くの市民を巻き込む

▶行田市でのこれまでの景観まちづくりの成果を継承
ぎょうだ足袋蔵ネットワークの活動、花手水、
八幡通り（外観改修、はちまんマルシェなど）
民間でも先導的な団体や、行政と地域が連携して、
さまざまな成果を挙げてきた

▶敷居が高くない、多くの市民を巻き込める
多様な取組の展開

⇒景観の価値を理解し、それを守る意識の啓発

⇒優れた景観資源（ランドマーク）の「点」から、
一般の土地開発や建物整備において景観を守り創造していくマインドを醸成、
地域の広がり、「面」としての景観質の向上

⇒現状から今後の景観法に基づく制度の展開において、
景観のルール（マナー）を意識してもらう。



■官民連携で取り組む景観まちづくり① ～杉戸町の景観まちづくり

▶まちづくりのポイント

・リノベーションまちづくり
空き家・空き店舗・空き地、公共的な遊休不動産も含め**エリアを活性化するために繋げて利用していく**

・リノベーションスクール（人材育成、リノベーション実践の種づくり）

・まちなかりビング（社会実験）
公共の遊休不動産を使った活用を実践する実験。**官民連携の先導的取組が、
民間のリノベーション活動を誘発する。**



駐輪場をリノベした一つ屋根の下

■官民連携で取り組む景観まちづくり① ～杉戸町の景観まちづくり

▶景観づくりのポイント
公共的な遊休資源の活用では、
景観を上手に活かして価値を高めている。

・拡幅整備前道路敷地、古利根川河川敷
駐輪場、学校など

県との連携により、河川など景観インフラが
まちと繋がり、リノベーションまちづくりに
町独自の個性や価値を与えている。

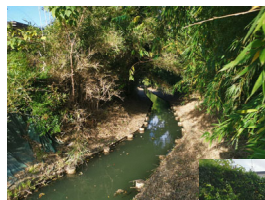
⇒まちの大きな軸である景観インフラは、
河川などの自然地形、歴史的街道、
歴史的ランドマーク
まちづくりのホットスポットや
人の活動を繋げるインキュベーターとなる。



▶南側用水路（景観インフラ）での官民連携の景観づくり

- ・南側用水路（市街地で暗渠化）上流側で、里地の水辺環境を再生する活動
町在住建築家が主導する「清流復活プロジェクト」
⇒どぶ川の浚渫や清掃など再生活動

市街地で暗渠化・散策道の整備が進む中、
町役場との官民連携の取組となり、護岸や木道の整備へと発展
杉戸宿案内人（観光ガイドボランティア）の活動との連携、エコツーリズム



地域の人々による継続的な取組 景観づくり活動（がまツーリズム）

市街地と郊外の連携

市街地の人々に町郊外の里環境への
気づきと、**地域課題**への意識を醸成
（景観から、環境・防災・農業へ）

ツーリズムとしての魅力アップが
郷土理解と暮らしの向上に繋がる



■官民連携で取り組む景観まちづくり② ～古河市の景観まちづくり事業

▶景観まちづくり初動期でよく行われる取組

敷居の不高くない取組といえば・・・

写真展、景観資源の登録、景観賞、まちあるき、ワークショップ、まちの美化
⇒「学びのステップ」

- ・まちの景観の理解：
わたしたちのまちの歴史や文化は？
またそれを理解するための景観資源は何か。
- ・まちづくりの課題
まちが衰退してきている
全体的にまちの景観が衰えてきている。
景観資源は、良好に保全されているか。古民家が残せない。

⇒学びのステップだけでは、問題提起や提案で一段落
だから、○○を活用すべきだ、△を整備すべきだ。（自分ごとではない）

学びのステップだけではない、実践のある景観活動へ

▶学びから実践へのステップアップ

古河市 市民共創まちづくり出城ノモリProject
まちなかDIYワーク2023より2回目

活動目的：
人材育成⇒
⇒まちづくりで実現したいことの相談の場
⇒ワークショップ
⇒企画のイベント実施
⇒市内外の人々の交流（景観の魅力の広がり）

景観づくりとしての意義：
景観重点地区を舞台に
市民がボトムアップ参加型で取り組む

取組の良いところ： **学び編⇒相談編⇒実践編**



学び編

「みんなのやりたいで創るまちの未来トーク～マーケットでまちを変える」

公共空間を利用したマーケット

相談編

「やってみっかい！相談所」
景観重点地区を舞台に市民のやりたいを実現。



実践編

「わくわくワーク」
ワークショップ参加者がイベントを企画・準備
成果により「出城ノモリ」を開催

⇒人材育成。市民交流と終了後のまちづくり参加を促す。

出城ノモリ



市民の意識（マインド）にある

見えない景観資源を掘り起こす景観まちづくり
～飯能中心市街地での景観づくりの実験的取組（埼玉大学）

問題意識：失われていく古民家、伝統的まち並みの変容から、
活かすべき景観資源をどう発掘するか

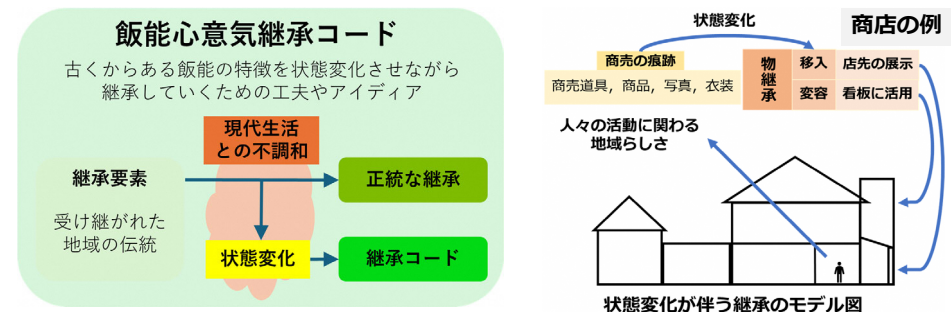
- ⇒自然（森や河原）を活かしたエコツーリズムの町とのイメージ
古い趣のあるまち並みが守るべき景観資源との意識が薄れていく。
- ⇒リノベーション型の遊休資産の再生では、創造的なデザイン手法が特徴
本来のまちなみの景観特性・伝統との調整が求められるのではないか。

▶古民家など伝統的な景観資源の保全と、リノベーション型景観づくりなど
現代的な取組を融合した景観づくりの方針を考える。

- ⇒伝統継承のための景観形成基準：
まち並みのルール・マナーとして共有できる形を目指す。
※景観まちづくりBook

飯能心意気継承コード（※デザインコード＝守るべき景観デザインの規範）

地域の伝統保全を努力しつつも、
現代生活にあわせ、伝統を変化させながら活かす考え方を編み出す。



・古民家など関係者、まちづくり職業人へのインタビュー
飯能らしさ、生活や行動のスタイル、まち並みの記憶、
伝統から受け継いでいきたいものなど。

・本来の姿、伝統を継承することが難しい場合、
その姿・形・場所・用途機能などを変化させた継承法を検討。

- ⇒物継承、型継承、心継承：
変化しつつも何を残して継承するか整理⇒20種類の飯能心意気継承コード
- ⇒伝統的な景観への考え方が、状態変化することを認められるか、アンケート調査。



飯能で大切にしたいこと（継承要素キーワードのみ）



20の飯能心意気継承コード

コード No	継承要素	飯能心意気継承コード
コード1	自然に触れる機会	人々と自然をつなげる空間づくり
コード2	古い建物との記憶	美しく朽ちていく建物を看取る庭を通して町の雰囲気を取り込む
コード3	家庭を良くする庭	片時も無駄にしない空き地
コード4	飯能は短町	自分だけの路地をつくる
コード5	町の中の路地	束の間の前庭
コード6	縄市の存在	小さな手仕事を取り付ける

受け継いでいきたいもの（継承要素）

家への愛し方

伝統に触れる方、との会話の中で、住む人もそうだし、つくる人も一緒に愛する、建物が残って欲しいという気持ちで建てて欲しいですね。

建物を住む人とする人がともに愛することで、その建物は愛着が生まれ、大切にすると感じてくれます。

関連する話題

飯能心意気継承コード

地域の宝を皆で楽しみながら守る

個人では価値があった家の手入れを専門家や近隣のひとと協力して楽しみながら行いましょう。

例えば近隣の住民や有志の学生が「出入りの家守り隊」を組織して、高齢者のお宅や小さな建物の手入れを協力して行いましょう。また、建物の歴史などのイベントの前には地域の一大イベントを行うことで、見過ごしていた家の歴史や建物の価値が生まれるだけでなく、家守りがれた後の手入れの知恵を次世代に伝える機会となります。

感想や関連する情報があればコメントをお願いします

Q1 継承要素が正統に継承出来ていると感じるか
感じない 1 2 3 4 5 感じる

Q2 この方法で継承する事に達成感を感じるか
達成感なし 1 2 3 4 5 達成感あり

Q3 飯能心意気継承コードの総合的評価
満足していない 1 2 3 4 5 満足している

飯能心意気継承コードの実践

飯能マチマキプロジェクト～飯能銀座商店街での薪を用いた景観社会実験

飯能駅周辺に、かつて存在した西川材にまつわる景観を手がかりに、それを形として変化させながら「見える化」する学生主体のプロジェクト

飯能銀座商店街および飯能のシンボル「飯能織物協同組合事務所棟」の敷地市、飯能銀座商店街、ハンノウ大学ほか地域団体と連携

- ・飯能心意気継承コード「町で薪を見せながら干す」を実践。
- ・地域の人々が景観づくりの素材となる薪を自ら割ってつくりだす
- ・商店主のヒアリングに基づき、薪を使った各種景観ファニチャー（滞留を促す）を商店街各所に配置

景観づくりのコンセプト

- ▶心意気継承コードを組み合わせる適用する
- ▶薪を使った景観ファニチャーがまち並みの統一感に貢献
- ▶薪を使って賑わいのある滞留空間を創出
 - ベンチ・テーブル・プランターと薪収納を一体化
 - 地域の鍛冶作家と協働した薪モニュメント（小さな手仕事を取り付ける）
- ▶商店街の求める機能に応える
 - 商品棚や広告物としても機能させ、省スペースでコンパクトなデザイン

飯能マチマキプロジェクト 飯能夏祭りでの織物協同組合事務所棟前の様子



⇒「西川材から薪」という状態変化を伴う継承のコンセプトでは、それに対する地域の人々の想いは多様であった。地域の人々はそこにしっかりと「物語」の説明を求めた。